

土壌汚染の可能性 不動産データを駆使

アースアプレイザルが業務開始

不動産鑑定評価と地質調査技術が連携、土壌汚染可能性のある不動産のデータベースと不動産減価計算システムを駆使して総合コンサルティングを行う「株式会社アースアプレイザル」(社長、釧持一郎ケイ・アイ不動産鑑定代表取締役)

が25日に業務を始めた。

全国地質調査業協会連合会(全地連)の有志60社で構成する協同組合地盤環境技術センター(一川宏也理事長)と、不動産鑑定事務所2社が出資して設立した。同社では、昭和50年近辺と現在(2002年)の2

つの時点で土地利用履歴の変化をとらえたデータを保有し、汚染可能性のある不動産地点情報を電子地図上に検索・表示させるシステムを開発。これを用いて、汚染された結果として生じる不動産への影響を評価する独自のシステムで、顧客に汚染情報や減価計算結果、薬品情報といったデータを提供する。

現在、東京23区を対象とした約15万データで稼働しているが、7月には全26万

データ(昭和50年近辺分15万5000、現在分10万5000)を入力し、システムを完成させる予定だ。

価格は1レポート(1ポイント)3万8000円。

所在地、問い合わせ先は、東京都千代田区神田淡路町2ノ4ノ6F&Fロイヤルビル7階 ☎03(5298)2151。